

令和 6 年 10 月の解説（府県天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、低気圧や前線が東・西日本を中心に通過することが多く、沖縄・奄美は旬のはじめに台風第 18 号や湿った空気の影響を受けた。旬降水量は東日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。旬間日照時間は、北日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、北・東日本日本海側、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。旬平均気温は、北日本を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、北日本でかなり高く、東・西日本と沖縄・奄美で高かった。

中旬は、北日本と西日本日本海側では旬の終わりに低気圧や前線の影響を受けたものの、北・東日本と沖縄・奄美では高気圧に覆われやすかった。旬降水量は北・西日本日本海側と北日本太平洋側で多かった一方、東日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。旬間日照時間は沖縄・奄美でかなり多く、北・東日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった一方、西日本日本海側で少なかった。旬平均気温は全国的に暖かい空気に覆われやすく、全国 914 地点のうち 100 地点以上で真夏日となった日もあるなど、全国でかなり高かった。旬平均気温平年差は東日本で+2.9℃、西日本で+3.1℃となり、いずれも 1946 年の統計開始以降、10 月中旬として 1 位の高温となった。

下旬は、北日本では、高気圧や低気圧が交互に通過したため天気は数日の周期で変わったが、移動性高気圧に覆われやすかったため、旬間日照時間が多かった。東・西日本では、期間前半は天気は数日の周期で変わったが、期間後半は秋雨前線の影響を受けて曇りや雨の日が多く、旬降水量が多く旬間日照時間が少ない所が多かった。22 日には、高気圧の縁を回って南から湿った空気が流れ込んだ宮崎県で線状降水帯が発生するなど、西日本では記録的な大雨となった所もあった。沖縄・奄美では、期間の半ばに台風第 20 号や前線の影響を、また期間末には台風第 21 号の影響を受けたため、旬降水量がかなり多くなった。全国的に暖かい空気に覆われやすく、また、日本海の低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあったため旬平均気温はかなり高かった。旬平均気温偏差は北日本で+2.2℃、東日本で+2.8℃、西日本で+3.2℃、沖縄・奄美で+2.8℃となり、いずれも 1946 年の統計開始以降、10 月下旬として 1 位の高温となった。

【10 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 1 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 84%となった。地方別の適中率では明日予報は東海、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。また明後日予報は東海、九州北部、九州南部、沖縄地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.4℃で、四国地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.1℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値より小さくなった。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の天気予報の利用にあたって】

12 月は、本格的な雪の季節の始まりです。低気圧が発達しながら日本付近を通過して強い冬型の気圧配置となるときには、北日本や東日本と西日本の日本海側では大雪や暴風雪により、交通機関への大きな影響や大規模な停電などの被害が発生するおそれがあります。各地の気象台で発表される最新の気象情報や早期注意情報、注意報、警報等に留意し、事前の備えをしてください。